

生成AIによって作成された画像等を外部向けに公開する場合の注意点

生成AIによって作成された画像や動画等のコンテンツを外部に公開する際には、法的、技術的、倫理的な観点から様々なリスクが存在します。企業や個人が安全かつ適切に生成AIコンテンツを活用するために、以下の重要な注意点を理解し、適切な対策を講じることが必要です。

知的財産権に関する注意点

著作権侵害のリスク

生成AIが作成した画像等が既存の著作物と類似している場合、著作権侵害に該当する可能性があります^[1]^[2]。特に、AIが学習した元データに含まれる著作物の表現上の本質的特徴を直接感得できる場合、著作権侵害の要件である「類似性」と「依拠性」を満たすリスクが高まります^[3]。

生成AIによる著作権侵害は、AIの学習段階と生成・利用段階の両方で問題となります^[2]。生成・利用段階では、通常の著作権侵害と同様の判断基準が適用されるため、個人的な利用であっても、著作権侵害の要件を満たす形でAI生成物を公開した場合、著作権者から損害賠償請求や差止請求を受ける可能性があります^[2]。

商標権侵害のリスク

生成物が他者の登録商標と類似している場合、商標権侵害に該当する可能性があります^[4]。単にロゴマークを表示するだけでは侵害にはなりません、自身のブランドとして使用する場合には商標権侵害となるリスクがあります^[4]。

商標権については、AIが生成したロゴマークであっても、人間の創造性は不要なため、商標登録することで商標権が発生する可能性があります^[4]。しかし、既存の商標と類似していないか事前に確認することが重要です^[5]。

意匠権侵害のリスク

生成物のデザインが他者の登録意匠と類似している場合、意匠権侵害に該当する可能性があります^[4]。意匠権は著作権と同様に人間の創造性が必要であるため、AIが生成しただけのデザインには意匠権は発生しませんが、既存の意匠権を侵害するリスクは残ります^[4]。

人格権・プライバシーに関する注意点

肖像権・パブリシティ権の侵害

生成AIが作成した画像が実在の人物と酷似している場合、その人物の肖像権やパブリシティ権を侵害する可能性があります^{[4] [6]}。特に著名人の場合、パブリシティ権侵害として損害賠償請求を受けるリスクが高まります^[7]。

パブリシティ権は、芸能人やスポーツ選手などの著名人の氏名、肖像等が有する顧客吸引力を排他的に利用する権利です^[7]。AIが生成した画像であっても、実在の人物の肖像と同一または酷似している場合、当該人物からの権利侵害の主張を受ける可能性があります^[6]。

個人情報の取り扱い

生成AIに個人情報を含む画像を入力する場合、個人情報保護法に基づく第三者提供の同意が必要となる場合があります^{[4] [8]}。特に顔写真などの個人情報が含まれる画像を処理する際には、本人の同意を得るか、適切な匿名化処理を行う必要があります^[8]。

技術的な注意点

ハルシネーション (幻覚) のリスク

生成AIには、事実に基づかない誤った情報を生成してしまう「ハルシネーション」という現象があります^{[1] [9]}。これは、AIが実際には存在しない情報や事実と反する内容をもっともらしく生成してしまうことを指します^[9]。

ハルシネーションによる誤情報の拡散は、企業の信用失墜や法的責任を問われるリスクにつながる可能性があります^[9]。そのため、生成された内容を過度に信用せず、必ず内容を精査することが重要です^[1]。

メタデータの管理

生成AIで作成した画像には、プロンプトやシード値などの設定情報がメタデータとして付与される場合があります^[10]。これらの情報が公開されることで、作成者の意図や設定が第三者に知られる可能性があります^[10]。

メタデータを削除するには、専用のソフトウェアやウェブサービスを使用することが推奨されます^[10]。ExifCleanerなどのフリーソフトウェアを使用することで、複数のファイルのメタデータを一括削除することが可能です^[10]。

品質のばらつき

生成AIは、同じプロンプトでも結果が異なる場合があります、生成物の品質にばらつきが生じるリスクがあります^[1]。商業用途で使用する際には、生成された画像を一つずつ確認し、必要に応じて修正や加工を行うことが重要です^[1]。

法的・契約上の注意点

利用規約の確認

生成AIサービスの利用規約やプライバシーポリシーを十分に確認し、商用利用の可否や生成物の権利関係を把握することが重要です^{[11] [12]}。各サービスによって、商用利用の条件や生成物の権利帰属が異なる場合があります^[13]。

OpenAIのChatGPTなどでは、利用規約を遵守する条件下で、ユーザーに作成したコンテンツの全権利が譲渡されますが、他社の著作権を侵害するような利用は禁じられています^[13]。

透明性と説明責任

生成AIを使用して作成したコンテンツを公開する際には、AIを使用した旨を明記することが推奨されます^{[11] [14]}。これにより、透明性を確保し、利用者に対する説明責任を果たすことができます^[14]。

特に企業が生成AIを活用する場合、AIの判断基準や使用したデータの内容について説明できる体制を整備することが重要です^[14]。

業界別・用途別の注意点

医療・法律分野での利用制限

AIを使って法律相談や医療行為など、特定の業種に規制されている業務を行うと、弁護士法違反や医師法違反などに問われるリスクがあります^[4]。これらの専門分野でのAI利用には特別な注意が必要です^[15]。

教育機関での利用

教育機関が生成AIを利用する際には、学習者の創作能力や思考力の発達に配慮する必要があります^[16]。また、生成されたコンテンツの使用について、適切なガイドラインを策定することが重要です^[16]。

対策とベストプラクティス

事前確認の徹底

生成AIによって作成された画像等を公開する前に、以下の点を確認することが重要です：

- 既存の著作物との類似性の確認^{[1] [2]}
- 商標・意匠権の侵害の可能性の確認^{[4] [5]}
- 実在人物との類似性の確認^{[4] [6]}
- 生成AIサービスの利用規約の遵守^{[11] [12]}

社内ガイドラインの策定

企業が生成AIを活用する際には、適切な利用ガイドラインを策定し、従業員に周知することが重要です^[16]。ガイドラインには、禁止事項、利用範囲、品質管理、リスク管理などを明記することが推奨されます^[16]。

継続的な監視と改善

生成AIの技術や法的環境は急速に変化しているため、定期的にはリスク評価を見直し、対策を更新することが必要です^[15]。また、新しい判例や法改正に対応するため、継続的な情報収集と体制の見直しが重要です^[15]。

まとめ

生成AIによって作成された画像等を外部向けに公開する際には、知的財産権、人格権、技術的リスク、法的コンプライアンスなど、多角的な観点からの注意が必要です。これらのリスクを適切に管理することで、企業や個人は生成AI技術を安全かつ効果的に活用することができます。

重要なのは、生成AIの利便性を享受しながらも、その潜在的なリスクを十分に理解し、適切な対策を講じることです。技術の進歩とともに法的環境も変化していくため、継続的な学習と対応が求められます。

✻

1. <https://eltes-solution.jp/column/digitalrisk-63>
2. <https://www.hitachi-solutions-create.co.jp/column/technology/ai-copyright.html>
3. <https://www.authense.jp/komon/blog/dx-legaltech/2838/>
4. https://note.com/ko_yamazaki/n/n7e312058950a
5. https://note.com/prime_python6682/n/n0fb9fa29e483
6. <https://storialaw.jp/blog/8424>
7. <https://www.businesslawyers.jp/practices/1480>
8. <https://dxpo.jp/college/system/chatgpt-illust-risk.html>
9. <https://www.dsk-cloud.com/blog/gws/what-is-hallucination-in-generative-ai>
10. <https://runrunsketch.net/metadata-remove/>
11. <https://help.freebie-ac.jp/detail/377>
12. <https://www.businesslawyers.jp/articles/1316>
13. https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/commercial-use/
14. <https://nocoderi.co.jp/2025/04/03/aiの透明性とは何か？わかりやすく仕組みと課題を/>
15. <https://www.kittenlawoffice.com/column/generativeaicountermeasure/>
16. https://metaversesouken.com/ai/generative_ai/guideline-2/